斎　館

鵜戸

発行者兼編集者
鵜戸神宮
社務所
印刷所
西日本印刷

# ごあいさつ

宮司　佐師朝規

明けましてお目出度う御座居ます。

昨年は天皇陛下御在位六十年の慶賀すべき佳年を迎え、全国津々浦々で奉祝の行事が執行されました事は、誠に御同慶に存じ上げます。

当神宮におきましても奉祝の大祭を斎行し、数々の記念の事業を遂行する事が出来ました事は御神威は申すまでもなく、氏子崇敬者の方々の限りない御協力の賜と深く感謝致しております。

年頭に当り、職員一同御神徳の発揚に努めますことをお誓い申し上げますと共に、皆様方の御多幸を祈念しまして御挨拶と致します。

# 一新した社頭

当宮では、天皇陛下御在位六十年記念事業として、数々の境内整備事業を進めていたが、このたび斎館が完成、一連の事業が終了した。

斎館は、社務所が狭隘になったため計画されたもので、献幣使室、書物庫、装束室を新たに造るというとで建設されたものである。

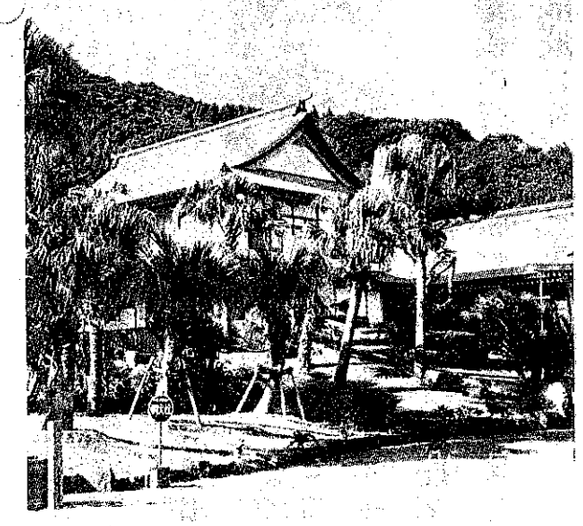
建物は、木造二階建銅板葺流れ造りで面積は二五九・一二五平方米（七八・五坪）である。社務所と並んだ斎館は、背後の山々と周囲の景観とに調和し、一段と荘厳さを増している。

竣工祭は、昨年十月十五日、宮崎県神社庁長黒岩龍彦氏、県神社庁南那珂支部長池田三郎氏をはじめ、建設委員、工事関係者多数が参列の中、厳かに執行された。竣工を祝い直会会場の儀式殿では、各工事関係者の表彰が行われた。引続いて参列者の観覧する中で、神宮職員による舞楽〝蘭陵王〟が優雅な演奏のもと雄壮に舞われ、喝采を浴びた。

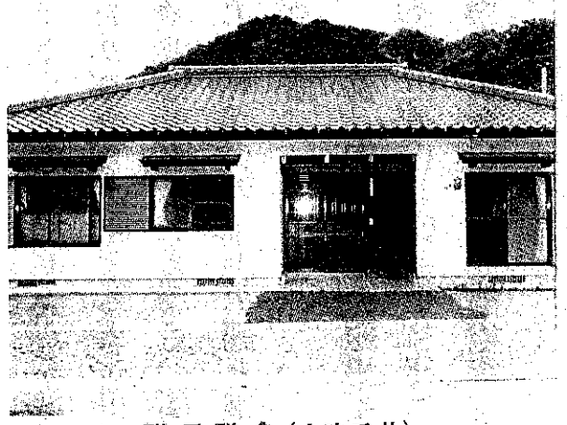
なお、完成した事業は次の通りであり、これによって社頭は一新した。

- 老朽化した宮司職舎の改築
- 神符守札授与所の改築
- 御本殿前鳥居の建替
- 境内山林に杉苗の植林
- 八丁坂下より社務所までの参道の美化整備
- 職員職舎新築（小吹毛井）

宮司職舎



参道



職員職舎（小吹毛井）



# 新嘗祭

あいにくの小雨模様の十一月二十三日、責任役員、氏子・崇敬者総代をはじめ地元選出の県議会議員、官公衙代表、各地区区長、敬神婦人会等約百五十名が参列して、今年の新嘗祭は厳かに斎行されました。

新穀を感謝するこの祭典には、南那珂各地区から数多くの献米、その他御神酒、御菓子等、所狭しとばかり本殿前には多数の奉納品が献上されました。

例年通り〝こどもかぐら〟が今年も賑やかに奉納されましたが、今年は新たに当宮敬神婦人会（富澤ミヨ会長）によって、斎館を会場に〝お茶会〟が盛大に開催されました。新嘗祭に併せて文化的行事も行おうということで敬神婦人会が初めて開いたもので、会員の中で茶の指導をされている裏千家の武野宗澄、長倉宗秀両先生がお点前を披露、会員や晴れ着姿の若い女性、一般の参拝者等数多くの人々が楽しまれました。

尚、献納者、こどもかぐら奉仕者は次の通りであります。

斎館にて〝お茶会〟

◎献米奉納者

北郷町内之田地区、中央地区、坂元地区、倉迫地区、伊十川地区、日南市松永地区、益安地区、甲東地区、乙東地区、殿所地区、大谷地区、大浦地区、平山地区、宮崎市押川真須子、愛知県加藤俊

◎献備品奉納者

松の露酒造、谷口酒造、京屋酒造、寿海酒造、古澤酒造、桜の峰酒造、門下酒造、小玉醸造、フンドーキン醤油、マルタニ醤油、とらや菓子店、松家菓子店、キネヤ菓子店、横山菓子舗、みうら菓子店、サンキュー堂、福田菓子舗、明月堂、うめや菓子店、吉村菓子店、とおるや菓子店、永井勝栄堂、西田菓子舗、ジャックと豆の木、宮銀油津店、宮相油津店、鵜戸中学校、鵜戸小学校、潮小学校、飫肥営林署、食糧事務所日南支所、小目井地区、堀之内久男、上杉光弘、津田商店、古藤キジ店、森水産、鵜戸水産、ホテル丸万

◎初穂料奉納者

日南郵便局、鵜戸郵便局、吹毛井地区、小吹毛井地区、油津地区区長会、日南電報電話局、宮崎相互銀行、鵜戸駐在所、伊比井駐在所、敬神婦人会、三ツ和荘、民宿南光、品村宗利、武野宗澄、長倉宗秀、長谷川裕師、井上進、川田商店、小田桂唯子、伊藤安雄

◎こどもかぐら奉仕者

一、榊の舞　宮川　典人
　　佐伯　俊也
一、献穀の舞　垂見　洋二
　　山口　貴弘
　　外山　貞治
一、えびすの舞　鶴田　隆一
　　宮川　典人
一、鈴の舞　福田　珠美
　　渡辺　美鈴

# 新役員・総代が決定

当神宮では、去る十月二十八日崇敬者総代会、十月三十日、十一月五日の両日に氏子総代会を開催、任期満了に伴う責任役員の改選を行った。

この結果、崇敬者役員は川越国雄氏、細田純市氏の両氏が留任となり、崇敬者総代会長を長く務められた北郷町長の高橋良則氏と、日南商工会議所会頭の田中静氏の二氏が新しく選ばれた。一方、氏子役員の方は全員が留任され、三選を果された。委嘱式は十一月十二日に就任奉告祭に併せ執行し、宮司より本殿において委嘱状が手渡された。

なお、氏子総代も各地区で総会が開かれ改選が行われた。その結果、左記の方々が選ばれ七月一日に委嘱式を執り行った。任期はそれぞれ三年である。

記

昭和六十一年十一月十二日

責任役員を委嘱します。

川越国雄、細田純市、高橋良則、田中静、関屋武義、和田三郎、安藤喜俊、鈴木義嗣

同年七月一日

氏子総代を委嘱します。

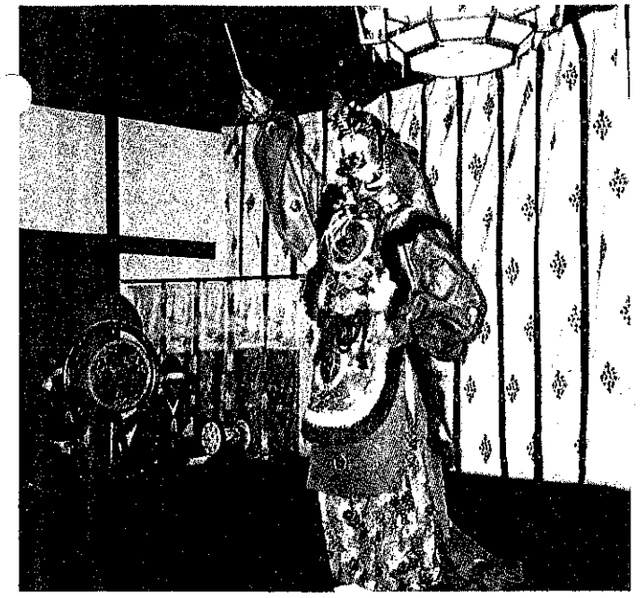
長谷川裕師、蛯原義勝、河野孝、津田宗治、水口行光、江口義雄、鬼束達朗、鈴木直嗣、平下与平、品原和男、増竹義也、水元福美

# 舞楽〝蘭陵王〟

権祢宜　田中克宣

舞楽は今日日本に残る芸術的舞踊のうち、最も古い歴史を持つものです。日本の御神楽等の国風歌舞も広い意義の舞楽のうちに含まれますが、狭義の舞楽は左方（唐楽）、右方（高麗楽）とに大別でき、左方は中国伝来の音楽舞踊を主とし、これに林邑の楽舞を改修したものです。右方は朝鮮系の音楽舞踊に満州の楽舞を改修したものですが、両方共当時に我国で製作したものも含まれます。これ等左右の舞曲はその姿により文舞、武舞、走舞、童舞に区別しますが、今度取り挙げた舞楽「陵王（蘭陵王、羅陵王）」は左方に属し、仮面をつけて活発な動作で舞うので「抜頭」「還城楽」等と共に走舞に当ります。装束はその曲を舞うのに限られて使用する「別装束」で、陵王の場合は竜頭の面と帽（頭巾）をかぶり、金色の浮を持ち紅の袍に雲竜の襴襠と金の帯をつけて舞います。その舞の次第はおよそ次の通りです。

一、小乱声　一人吹
一、陵王乱声　舞人出デ、舞台ニ登リテ出手ヲ舞イ、居直ルイ
一、沙陀調音取
一、当曲（陵王）



一、案摩乱声　舞人入手ヲ舞イ、幄舎ニ入ル

舞楽陵王の由来は、北斎の蘭陵王長恭は容姿が美しかったので常にいかめしい仮面をつけて戦場に臨み、周の大軍を破り、その武勇は轟き人々はこれを喜び祝ってこの舞を作ったと伝えられて居ります。

鵜戸神宮では宮司の命により舞楽「陵王」を奏舞する事と成りまして、昭和六十一年七月十四日より一週間舞楽講師として当宮々司の御子息に当られます佐師群壹殿を京都よりお迎えしました。私も京都では何度か此の舞を拝見致した事が有りましたが、実際にその舞技を学んでみますと、見て居た通りスムーズには体が動かず、改めて舞人の方の技術に感心して居る次第です。加えて中国の大極拳の技法をそのまま舞としたものとの事ですから、足腰が痛くなると言った日頃の運動不足が表われる結果と成りました。しかし当日本番時には白衣、差袴で舞う様には行きません。面をかぶれば目穴が小さい為遠近感覚の不正を始め、体のバランスが失われてフラフラすると言う事で、紙袋をかぶっての練習も有りました。とにかく講師の先生が色々と有難いアドバイスをして下さいましたので、それを十分に考慮して練習を続けてゆきたいと思います。

## 謹賀新年

宮司　佐師　朝規
禰宜　三輪　吉治
〃　尾方　一郎
権禰宜　谷口　正史
〃　佐藤　東
〃　山口　弘美
〃　永友　謙二
〃　中武　信明
〃　田中　克宣
出仕　河野　博文
〃　伊東　健治
〃　中嶋　智子
斎女　平下砂代里
巫子　田代智津子
〃　阿部　栄子
〃　村田　暁美
〃　桝田美智代
〃　岩切　一子
〃　後藤　悦公
〃　谷脇　ルミ
〃　佐藤富士子
守衛　川畑　安盛
〃　杉原　与市
〃　育田　時芳
〃　平下　修三
〃　湯浅　好一
〃　浜元　隆男
〃　鬼束　忠一
掃除婦　宮本ツヤ子
〃　水元イチ子
〃　安部　照子



# 神様はいつも御覧になっていらっしゃる

権祢宜　中武信明

朝、御本殿の掃除をしていると、神様はこれでお喜びになって居られるのだろうかと思う事があります。私は「神様はいつも御覧になっていらっしゃる」と思って掃除をしています。その方が心が引き締まるからです。ただ、していたのでは身が入らないし好い加減な掃除をしてしまいそうだからです。「神様はいつも御覧になっていらっしゃる」と思っていると、手抜き等出来ない気持ちになるし、きれいにしなければと思うからです。しかし、時間がなかったり忙がしかったりすると四角い所を丸く掃くといったやり方になりがちです。又、御本殿は鷕鷊草葺不合尊の産殿の址と伝えられる洞窟の中に御鎮座致されており、又海岸ぞいの為湿気が多く、特に梅雨の頃になると漆塗りの御本殿の板は水をうったように濡れ、一回の掃除で足袋の裏が真赤になる時等、いつもの通りにやらなければと思うのですが、「まあいいだろう」と思ってしまうのです。「こんな日は神様がお許しになられるだろう」と自分勝手に考え、自分自身に言い聞かせてしまいます。神様にすれば「まったく好い迷惑だ」と思っていらっしゃるかもしれません。反対に出張しなければならない時とか、心配事がある時には、「事故に遭いませんように」「早く良くなりますように」と思って掃除をします。こんな時には、いつもはやらない所までしたり、普段でも掃除の順序を一つでも飛ばすと神様の御陰がなくなるのではないかと思ってやっているので、ましてやこんな時には自分でも神経質ではないかと思うくらい丁寧になります。何故ならば神様の御恵をいつもより多く頂きたいと思うからです。

朝は「おはようございます。今日も一日宜敷くお願い致します。……」、夕方は「今日一日有難うございました。……」と神前に手を合せます。すると神様が微笑んでいらっしゃる姿が心の中に浮かぶのです。もちろん、これは自分の創造でしかありません。私には霊感はないのですから。いつの頃からこんな事を考え始めたのだろうかと思う事がありますが、確か私が出雲大社に奉職していた時分に「神様はいつも御覧になっていらっしゃる」という訓事を聞いていたからだと記憶しています。神様も祭典だけでなく普段の生活も御覧になっておられるはずです。ただ御覧になっておられるだけでなく、いろんな事を考えて居られ例えば掃除一つを取り上げてみても、「まだ、あの角が汚れているとか、塵が落ちている」と思われているのかもしれません。私はどこまですれば神様はお喜びになられるのだろうかと考えました。考えれば考える程切りがありません。ですから、神様は「いつも有難う」と語りかけておられるんだと思って掃除をやって行きたいと思っています。これで良いのか悪いのか分かりませんが、己の心の中に「神様はいつも御覧になっていらっしゃる」という事を入れて神明奉仕して行きたいと思います。

# 神様は心の拠り所

出仕　伊東健治

授与所から日がな一日参拝者を見ていると、物見遊山な心持ちで来ている事は小生の目で見ても一目で分かる。だがそんな参拝者も御本殿の前の賽銭箱では大半の人が立ち止まり、幾らかの硬貨なり紙幣を財布から賽銭箱の中に送り込み、何か神妙な顔になり手を合わせブツブツと呪文を唱える様な小声で願い事をいいパチパチと二度拍手を打つ。それから先は、又、元の顔になり、授与所をひやかし写真を撮るぐらいで、朱門を後にし参道を駐車場へと歩いて帰って行く。

それらの人々を見ていると神様を一般の人々はどう思い、どう関係しているのかを小生なりに考えてみた。世間では宗教ブームといわれる昨今だが、父親なり母親が宗教に携わっていない限り、実家が何の宗教を信仰しているのか知らないのだろうし、葬式で初めて知るぐらいではないのか。若者でこの事を知っている者は稀有なのではないかと考える。

祖父の世代までは、かなり密接に家庭の中に宗教が関わってきた事は確かだし熱心な信者も老人が多い。だが戦後、自己における信仰を失してきた人も少なくない。

これが若者となると、全んどの者がそれを持っていないといっても過言ではない。

最近若者達の関心が神秘的なもの、占い等へと向っている。手相がどうだ、字画がいい、悪いといった事には敏感に反応するし、科学では物事全てが解決、究明出来ないと分っていても、その関心が必ずしも宗教や信仰へとは至っていない。心の痛みや悩みを治癒してくれるのは、自分の話や悩みを聞いてくれる友人知人の励ましや慰めであり、宗教上の慰めや信仰は稀有である。

こんな若者も、正月には初詣をするし、入試も間近になると学業成就の御祈願なり御守を頂く。こういう見方をすると苦しい時の神頼みみたいに思うが、大人でも厄祓いをする程度で一般に変わりはない。

しかし人生の通過儀礼、季節的行事として参拝するにしても、神様の前では、神妙になり願い事を請う。これは、日本人に脈々と受けつがれている精神的文化ではないのか。

古来から日本人は、特定の神だけを信仰してこなかった。天地自然、森羅万象を神と崇め、そのローカルな宗教を高等宗教化し、日本特有の四季をも逆うことなく季節ごとに祭を定め、それを生活の中心に据えてきた。

その基本的精神風土から生まれた文化は、諸外国からの文明、そして仏教、儒教といった宗教さえも寛容に受け入れ、日本特有の文化として育んできた。その寛容的精神を無意識のうちに受けついでいる。だからこそ、苦しい時の神頼みという諺がある様に、日常は神様を拝まなくても、災難にあったり、困った時の心の拠り所としているのではないか。神様は、全智全能なのだから、私一人ぐらいの願いはかなえてくれると思っている人は、余りいないだろう。願いを聞いて頂くそれでも心配な人は、御祈願に依り神職より神様に願いを請う。それだけで五里霧中、濃霧の道にも一筋の光がさし、そして晴れてくるから神様の力とは不思議だ。

やはり神様は心の拠り所なのだろうと愚考する所存である。

## ポーツマス市より親善訪問団来宮

日南市姉妹都市・ポーツマス市（米国）のメアリー・キーナン市長、エブリン・マルコーニ副市長、アイリーン・フォーレイ前市長ほか同市の商工会議所副会頭、法務行政官、銀行家、医師など女性十四人を交えた二十一名の親善訪問団一行が十月十七日より二十日まで四日間、日南市に滞在された。

これは、日露戦争後、アメリカ合衆国大統領セオドアル・ルーズヴェルトの斡旋によって、日南市飫肥出身の日本全権小村寿太郎とロシア全権ウィッテが、アメリカのポーツマスに会し講和条約を締結した時より八十年を記念し、一昨年の九月五日、姉妹都市締約のため、日南市より官民三十名がポーツマス市を訪問したのに返礼するために来日したものである。

一行は、長旅にも疲れを見せず精力的に日南市を巡って親善を深めていたが、十九日には当宮に参拝された。宮司の案内により、本殿を参拝されたあと、市長は洞窟内の願掛絵馬に興味を示され、「ここに書いてあるこの願いごとをみるとポーツマス市民が願っていることと同じことを書いていました。」とおっしゃり、又、御主人も「教会にローソクを上げてそうしているが全く同じだ。」と感心されていました。

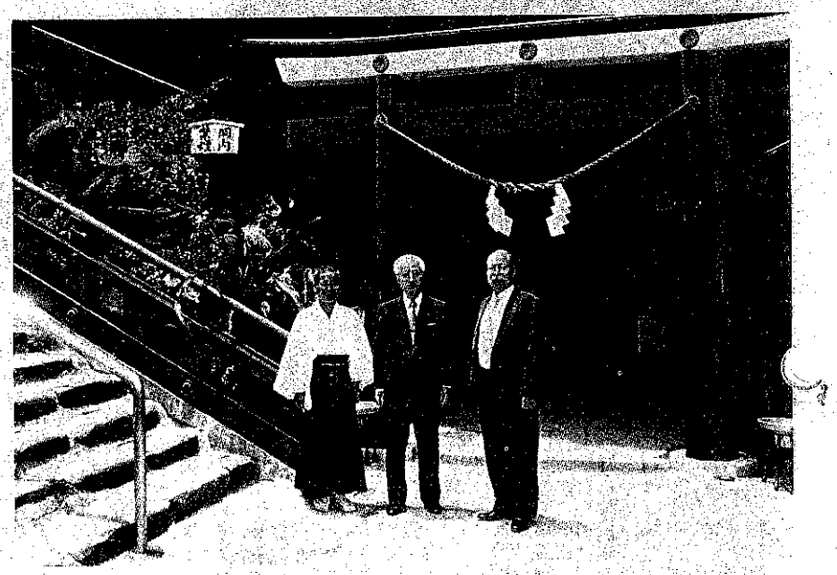
このあと一行を儀式殿に案内した。儀式殿では当宮の職員が直垂の装束を着けて勢揃いして待機していた。幕が開くと越天楽の調べが厳かに奏でられ、次に荘厳で華麗な蘭陵王が曲に合わせて舞われると、一行はうっとりとして古典の世界へと導かれていき、感嘆のためいきが流れていた。そして米国にはない日本の歴史の重みを思いつつ一行は当宮をあとにされた。

メアリー市長一行



# 社務日誌抄

七月一日　氏子総代委嘱式
七月三日　長野県豊科駅十五日会二十名参拝
七月四日　福岡県護国神社敬神婦人会小塩千鶴子氏他二十七名参拝
七月六日　京都市吉田神社宮司太爺恒夫氏参拝
七月十五日　滋賀県太郎坊阿賀神社中村氏他十一名参拝
七月二十七日　大阪国立民族学博物館文学博士佐々木高明氏他参拝
八月五日　大津市御霊神社宮司樺山資英氏夫妻参拝
八月六日　京都大将軍神社宮司今原嘉廣氏他参拝
八月十日　斎館上棟祭執行　国学院大学教授小林茂美氏、院友会常務理事高藤昇氏参拝
八月二十三日　春日大社宮司花山院親忠氏奈良県教育委員長慶田八郎氏他六名参拝
九月五日　別府市孔省不動明王院宮長竹原日満氏他十五名参拝
九月五日　県神社庁総会出席のため宮司他役員職員出向
九月二十四日　東宮御所へ宮司出向
九月二十八日　京都八ツ橋社長鈴鹿且久氏他十七名参拝
十月十五日　斎館竣工祭執行
十月十八日　赤間神宮権宮司大司満邦氏他参拝
十月十九日　米国ポーツマス市長他二十九名参拝
十月十九日　五神宮宮司会任奉告祭及委嘱式
十一月十六日　日立市わたつみの会会長鳴志田恒世氏他五十六名参拝
十一月二十三日　新嘗祭執行
十一月二十六日　五神宮職員会のため宮司他職員霧島神宮へ出向
十一月二十七日　広島東洋カープ阿南監督他三名、セントラル・リーグ優勝奉告祭のため来宮
十二月四日　茨城県芳賀神社総代会市村正雄氏他二十七名参拝
十三月二十七日　媒払祭
十二月三十一日　大祓式、除夜祭



吉田神社宮司　大爺恒夫氏

のため宮司霧島神宮へ出向
十月二十三日　寒川神社宮司瀧本正彦氏他参拝
十月二十四日　責任役員会
十月二十六日　長崎県諏訪神社宮司上杉千郷氏他参拝
十月二十七日～二十八日　氏子総代福岡方面へ研修旅行
十月二十八日　崇敬者総代会
十月三十日　氏子総代会
十一月三日　明治祭執行
十一月五日　氏子総代会
十一月十二日　責任役員就

# 第一回シャンシャン馬道中唄 全国大会を開催

第一回シャンシャン馬道中唄全国大会実行委員会が去る十一月十四日、日南市福祉会館で開かれ、全国大会の開催日時や実施内容などを決めた。

これによると、開催日時は予選大会を本年三月二十八日に日南市福祉会館と日南文化センター、決勝大会を当宮において翌二十九日に開くことにした。

募集人員は、一般の部（三十一歳以上）二百人、青年（十九歳～三十歳）、少年の部（十八歳まで）がそれぞれ百人の計四百人。予選通過者は、一般の部が二十五人、青年、少年の部はそれぞれ十人。一般の部は上位十人、青年、少年の部は上位五人を入賞とする。

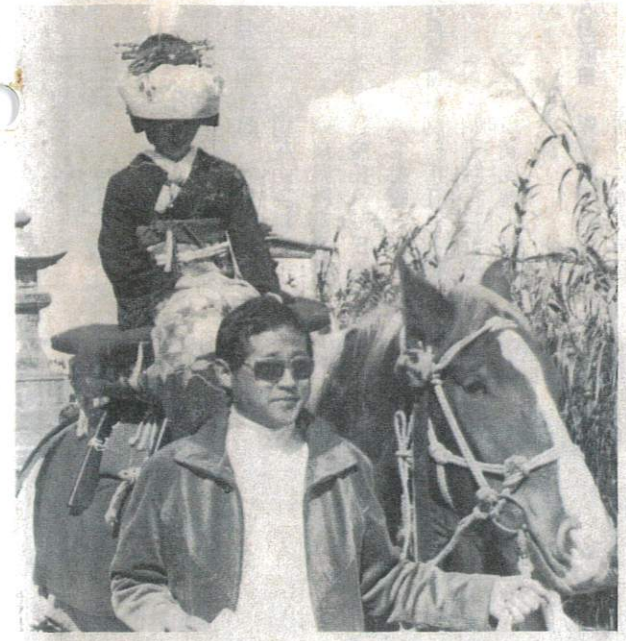
申込みの受付けは、日南商工会議所内のシャンシャン馬道中唄全国大会事務局宛、締め切りは一月二十日までとなっている。

…旧暦の三月十六日には若草の萌える日南海岸七浦七峠から宮崎街道にかけて盛装の花嫁を乗せた馬の群が鈴をシャンシャンと音も軽く行列をなして絡繹として続いていたものである。これは鵜戸、榎原両社への宮詣りの帰路である。新郎新婦の晴れの新婚旅行なのである。宮詣りをして、帰りの最後の宿で花嫁は化粧を直し、髪を結い、衣服を着替える。親戚や講中の人も多くはこの宿まで出向いて迎え宴を開くのが常である。花嫁も花婿も軽装で、馬には鞍を置き布団を敷き花嫁の坐席をつくり、馬の尻には美しい尻掛を置く。首には、一足ごとにシャンシャンと軽く鳴る径一寸五分もある肥後鈴をつける。旧三月十六日には、この盛装した花嫁を乗せ手綱を取る花婿の長い長い行列があちこちに続き当日はあたかも祭礼の様であったという。

（参考　鵜戸の宮居）

全国的に愛唱されているこの唄は、このようにシャンシャン馬の由来によるもので、歌詩、曲とも非常に明るい内容で民謡愛好者に好まれているという。歌詩そのものは昔からあったが最近のようにメロディーが確立されたのは昭和三十年といわれている。

明るく健康的で春に先がけて開くこの全国大会をぜひ成功させたいと関係者の期待は高まっている。



## 訂正

前号（第二十三号）の寿太郎侯の七言絶句の文中「鵜戸神社在洞中石段老杉年不知波叩奇厳極壮観来客四時不絶」は「鵜戸神社在洞中石段老杉不知波叩奇厳極壮観遠来客四時不絶」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

## 編集後記

穏やかな日々が続く今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。ここに社報第二十四号をお届け致します。

昨年末は、三原山噴火で全島民避難するという災害で一騒動ありましたが、自然の驚異をまざまざと見せつけられる出来事でした。大島町の方々には心からお見舞申し上げます。日南地方も冬になると桜島の火山灰が降り農作物をはじめ多大な被害をうけますが、相手が大自然ということでどうしようもありません。天災は突然やってきますが、何事もない一年を期待したいものです。

時節柄皆様方のご健康をお祈り申し上げますと共に本紙の充実のため皆様方の多大なる御協力をお願い申し上げます。

（谷口）